

議長記者会見（第20回）会見録

日時：平成27年10月2日（金）

午後3時01分～

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う中村議長（右）と西田副議長（左）

1 今議会を振り返って

いつもお世話になっております。皆様のご理解とご協力を頂きながら、私ども正副議長が、今回2度目の定例会を勤めさせていただきました。2度目ということで、少しは緊張がとれたかな、という思いで、本会議等々の進行もさせていただいたところであります。

①新幹線開業効果の県下全域の波及及び持続・発展について

今定例会では、3月に開通しました新幹線開業効果の県下全域へのにぎわいの波及、それを持続させていく、発展させていく。このことに対する各議員さんからの質問が多かったのではないかと考えています。新幹線開業の効果を地方創生という立場で捉えさせていただいている本県としては、全国から視察の対象に、石川県議会、あるいは石川

県が選ばれているということで、改めて、新幹線の開業効果というものが、地方の立場からいたしますと、そこまで及んでいるということ、改めて実感いたしました。今回の北陸新幹線金沢開業がいかに関局的に注目されているか、そのことを行政視察の増加によって感じさせていただいているところであります。

②観光戦略について

観光戦略につきましては、中心部における観光地への方向、距離を示した路面標示等の設置から始まりまして、東北地方でのマスメディアを活用した石川県の魅力発信、つまり関東も首都圏も近くなったと同時に、東北が近くなった。これは、今後の賑わいの創出につながってくるのではないかと、そういう意味での東北地方に対する石川県の魅力の発信ということについて、各議員から質問がありました。

また、クルーズ船等々についても、定着促進のための予算が計上されましたので、これらについても各議員から質問があったところであります。

私たちがここで考えなければならないことは、土日祭日の賑わいは当然のこととして、平日の誘客対策、例えば金沢城址公園黒門口の整備、クルーズ船で来たお客さんについて、長野県や岐阜県を巻き込んだ誘客支援策について取り組む必要があるのではないかと、ということで、改めて、石川県だけではなくて、北陸、信越地方も含めて広範囲な観光戦略を推進していかねばいけない、というような質問もありました。

議会としても、真剣にとりくんでいかねばいけないのではないかと考えております。

③航空行政について

一方では、小松空港は残念ながら、利用者は昨年同期と比べて3割減となっています。特に、ビジネス客の皆さんの減少が顕著でありまして、運賃の割引制度あるいは駐車場利用料金の引き下げなど、改めて周知を徹底するとのことでありました。

知事も、県職員に飛行機を利用するようにとの声を発しておりますから、私は小松空港の今後を考えたときに、石川県としては、もっと真剣に捉えていく必要がありますし、福井の皆さんにもっとご利用いただくことを働きかけていかねばいけないと思います。私も副議長も、出張の際は新幹線で東京に出かけることが多いのですが、できるだけ議長、副議長は、せめて片道は飛行機でと思っています。私、議長になってから、今まで10往復、行き来で20回東京に出張しておりますが、そのうち4回飛行機を利用しています。

微力ながらですが、私が小松空港、副議長は能登空港を利用するというので、それぞれが新幹線だけに集中するのではなくて、公平公正に。そして将来のことを含めた小松空港のあり様を踏まえて、私どもも飛行機を利用していかなければいけないと意識させていただいております。

8月から、ご存じのとおりソウル便が再開いたしましたけれども、国際線を活用した誘客の拡大に向けての質問もありました。後ほど詳しく申し上げますが、この便に乗りまして、この10月4日に韓国の全羅北道議会議員団から、友好訪問を受けることになっております。ソウル便に乗ってきていただけるということで、大変喜んでるところであります。

それから18日から、タイ及び香港の航空会社等に議員を派遣いたしまして、毎年働きかけをやっておりますが、就航促進を図るということで、執行部と国際線の持続及び発展のためお互いに協力しながら、小松空港の国際化をしっかりと行っていきます。これは従来と変わらず、これからもやっていかなければならないと思っています。

④地方創生について

安倍総理が、地方創生ということで第2のアベノミクスを発表いたしました。石川県も、新幹線開業を1つの起爆剤として、地方創生のエースとしての見方を政府からされているところもあります。私どもも地方創生は新幹線と結びつけていくこと以外に考えられないと言っても、決して過言ではないと思います。新幹線でのにぎわい創出、つまり、人や物を運んでくるだけの新幹線ではなくて、石川県の将来の夢、希望、期待を運んでくる新幹線とする、このための地方創生をしっかりと、新幹線の時代を通して作り上げていく必要があるということになります。特に今回、就業面と生活面の情報をワンストップで提供する、「いしかわ就職・移住総合サポートセンター」の設置に向けた予算が計上されましたので、これをしっかりと実現させて、首都圏での設置場所、あるいは首都圏以外への拡大等々についても、単に1部局でやるということではなく、部局内の連携をしっかりとらせていきながら、更に私ども議会とも連携しながら、地方創生について政府の方針にも基づいてしっかりと取り組んでいきたいなど、こんなふうに思っています。

⑤北陸新幹線敦賀以西の延伸について

それから、今日は議会でちょっと皆様方にお騒がせしましたが、北陸新幹線敦賀以西への延伸についてであります。今回、敦賀―米原間のルート決定についての決議が、議

会でなされました。同じように、敦賀以西の問題について、早期に国がルートを決める方針を示すべきという決議案も出されました。私は両方とも大切だと思っております。

今回自民党から提案されました、敦賀―米原間の決議の採択というのは、これはこれで良かったと思っております。あくまでも基本は、一日も早く京都、大阪に繋げていく、そのことによって、加賀地区あるいは福井県を含む地域での発展に繋げていく。そのことへの思いは同じではないかと思っております。とにかく、今回の決議を通して、私は国も、関西経済界も、あるいは敦賀―米原ルートを主張している滋賀県も、JR西日本も、そういう意味では、私どもの意見書採択を通して更にルート問題について大きな発展を見せるのではないかと。そう思っております。改めて、私は敦賀―米原ルートの早期実現というこの決議はご理解頂けるのではないかと。そんなふうに思っています。

2 議会の広報・広聴について

「ふれあい親子県議会教室」の結果報告

あと、議会の広報広聴についてであります。夏に行いました「ふれあい親子県議会教室」の結果を報告いたします。

大変好評でして、来年もぜひやってほしいということでもあります。35組90人の親子の皆さんが参加したわけですが、もっと参加したいという子どもたちがいるということも聞きまして、来年は2日間にするのか、回数を1回にして人数を増やすのか、その辺は事務局ともしっかりと実務的な面で打合せをしながら、多くの人たちに議会に来て頂く。開かれた県政、開かれた議会を目指すということは、私や副議長の就任当時の皆さんへのお約束ですから、ぜひ「ふれあい親子県議会教室」を、今年以上に来年は大がかりにやらせていただこうと思っております。今月末に発行いたします「県議会だより」で、その結果報告を公表させていただき、広く県民に知っていただこうと思っております。

3 トピック

韓国・全羅北道からの訪問受け入れについて

先ほど申し上げました、韓国全羅北道からの訪問受け入れであります。これは、平成25年11月1日に、韓国全羅北道議会と調印いたしました「友好交流に関する合意書」に基づいて、今年は、今年4日から7日までの日程で、全羅北道議会のキムガンズ議長さんが団長になって、10名の議員さんが来県される予定であります。随行の方を含めて、18名の大訪問団であります。ソウルから小松に入って、私たちと交流する予定になっております。今議会の、私たち正副議長からの報告は、以上です。

4 質疑応答

記者

敦賀―米原ルートが決議の件についてですが、議長がおっしゃったように、1日も早く大阪までということですが、敦賀―米原ルートですと隣の福井県さんとは全く違うのですが、今後の連携の足かせとか火種になったりしないかとの懸念とかはあると思うのですが、その辺はどうでしょうか。

中村議長

そうですね。そういう意見もなきにしもあらずということですがけれども、不破議員の賛成討論で、ご承知いただけていると思っています。福井県とは全く論議をしない、あるいは話を聞かない、ということではありませんので、水面下では福井県の議長、あるいは福井の県議等々から、書面なども来ておりますし、話もさせていただいております。

基本的には、敦賀―米原ルートを石川県議会が決議したことによって、繰り返しのようになりますけれども、このことによって新たな論議がスタートできると思っております。実際に、敦賀―米原ルートがささやかれ始めたときから、堰を切ったように福井県も支持ルートを明らかにしましたし、関西広域連合もそうでありましたし、何よりも沈黙を守るはずのJR西日本が、新たなルートを発表しました。

そういうことも考えますと、これは「火をつける」という大変な効果があると思っております。改めて私どもの考え方も、しっかりと福井県の皆さんにご理解いただいた。今後の連携も十分やっておりますし、何ら問題があるとは思っておりません。

記者

火をつける効果がある、議論を発展させられるというのは、ルートについてこれを機会に議論を重ねられるということでしょうか。

中村議長

基本的には今日決議しましたから、石川県の主張は敦賀―米原ルート。これは基本的な部分で主張していかなければいけないと思っています。後は私どもが、福井県さん、関西広域連合さん、大阪府や京都府の経済界の皆さん、また滋賀県さんとの考え方も含めて、これから論議が展開されることは确实だと思っていますので、その辺については、私が答える範疇にはないと思っています。

記者

論議を巻き起こせることに、今回の決議の意義があるということでしょうか。

中村議長

非常に意義があったのではないかと考えています。

記者

今回、新幹線の決議をされて、また国の方にも要望活動をされるということでしょうか。

中村議長

要望活動は、当然やらなければいけないのではないかと考えています。前回もお話させていただきましたが、採択された意見書等につきましては、皆様方にお話したとおり正確に伝えていく。まして敦賀一米原ルートの議決につきましては、正確に国に届けるということは、極めて大切なことと考えておりますので、しっかりと届けていきたい、こんなふうには考えています。

記者

決議案が2会派から出てきて、調整がつかず不調に終わり、最後は未来石川から出た決議案が採決に至らず、ということになりましたが、これについてはどのようにお考えでしょうか。

中村議長

一事不再議ということで今回処理させていただきましたが、私は未来石川さんの提出した決議案について、議長として十分配慮させていただいたつもりです。否決ということになりますと葬り去るということになりますので、そうではなくて、内容については反対できる内容ではありませんので、そういう意味では一事不再議ですと、その決議が活着しているということになりますので、今回の処置はベターな、ある意味では意義のある処置であったと考えています。

記者

決議が活着している、の部分をも、もう少し詳しく教えてください。

中村議長

再提出ができる、つまりもう1度提出できるチャンスが残っている、ということです。

記者

今議会中、「安保法案に反対するママの会石川」の方々が、子連れでお越しになったのですが、議長はご覧になりましたか。

中村議長

私が議長席に座っているときに、ちょうどお子さん連れでおいでましたね。議場の傍聴席に入ることは許可していましたので。もし子どもさんが泣き出したり、むずかり出したりしましたら、直ちに退出していただきたいということも申し添えてありました。ちょっと声も発せられましたし、子どもさんも動き回りましたので、お母さんはそれを察して、関連の議員さんの発言を聞くことなく退出された。それを私自身、確認しております。

記者

子連れ傍聴に関しての議長としてのご意見はいかがでしょうか。

中村議長

私自身は、小さなお子さんが議場に入って、そのことで万が一にも質問者である議員が質問に集中できない、ということがあってはならないと思っています。やはり今のところは、子どもさんは、本来であればご遠慮いただくということがいいのではないかと思います。実際、子どもさんがちょっと声を発したときも、立ち上がって傍聴席に顔を向けた議員さんがおられましたので、集中的な審議をする上では、問題があるのではないかと思います。子どもさんの口を塞ぐという、そんな無茶なことはできないわけですから、議場はやはり無理なんじゃないかな、と思っています。

記者

全国には、別室を設けるなど配慮したうえで、傍聴を認める議会もあるみたいですが。

中村議長

石川県議会も、議場の前のロビーや1階の部屋にテレビが置いてありますから、そこでご覧になれるはずですよ。まあ周知のこともありますけど、議場の前のロビーのテレビを見ることは簡単ですよ。改めて部屋を作るということよりも、当面はそこで見ていただければいいのではないのでしょうか。私は、市会議員の期間を含め、議員になって29年目になりますけれども、あんなに小さなお子さんを連れのお母さんが傍聴に来られたのを見たのは初めてですから。私の経験から言っても、特別なことなのですね、今の議会の中では。

記者

議会運営委員会の中で、決議2つの順序について、議長は特段の理由はないけれども、議長の判断でああいう順番にしたというところを、もう少し詳しく説明して下さい。

中村議長

大変重要な案件であるということが1つと、順序については、慣例でやっていることであって、条例その他で決められたことではない、という事務局の説明があったので、意思表示の1つとして、真っ先に決議をさせていただいて、次に進もうと。単純にそういうことです。

記者

敦賀一米原ルートは、大変重要な案件なので、真っ先に決議しようとしたと。

中村議長

そういうことですね。

他にありませんか。どうもありがとうございました。